

哲学思想の基礎

第二部：世界を理解する哲学

担当：山口裕之

前回の要点

哲学とは

- 「人生論」「人それぞれ」「浮世離れ」ではない。

世界を理解するときに、

- 体験より論理を重視する。
- 一般概念の把握を目指す。
- 理性(論理的思考力)の普遍性を前提とする。

→一見すると奇妙だが、われわれの日常をよく考えてみると確かにそのようにしている。

哲学は何を問題にしているのか、 なぜそれが問題なのか

パルメニデスの衝撃

- 論理的に考えると、生成変化が謎になる。
- 普遍にして不変の概念によって、生成変化する世界をいかにして理解するのか？

授業コメントへの応答

全般的注意

- 「思う」「感じる」「考える」「気がする」「印象を持った」
⇒消して、理由を書こう
- 「いろいろな哲学者」「哲学の特徴についての話」
⇒具体的に。
- 意味が不明な文章を書いている人が結構いた。
⇒下書きして話の筋(論理の流れ)を固めてから書く。
⇒「主語、述語。接続詞、主語、述語。」と短く切る。
⇒指示語の指示対象を明確にする。
⇒具体的な中身の不明な抽象語は使わない。
(実在とか実体とか本質とか)
- 単なる感想で終始している人も結構いた。(用紙に「面白かった点」と書いてあるのは失敗だった)

質問の三要素

- 人を殺すと罰せられるが、ハエやゴキブリを殺しても罰せられないのはなぜか。
- LGBTの人が存在するということは、「人間は異性を愛する」ということは一般的に正しいとは言えないということですか。
- デジャヴについてどう考えますか。
- 質問するのは大変結構ですが
 - ①その質問をする理由(授業内容との関連)、
 - ②自分なりの解答、③そう解答する根拠を書いてください。

論理と多数決

「哲学においては体験より論理が先に立つ」と言っていたが、これは哲学が市民社会の慣習に影響されているからだと考える。なぜなら市民社会では一人の体験よりも社会的に認められた論理が優先されるからだ。

- 論理や科学理論を「社会的に認められているもの」と書いている人が多数。
- 「多数の人がそう思っている」ということと、「正しい」ことは別のこと。

論理と理解

原理を理解するためには経験が必要なため、「論理が経験に先立つ」というのは間違いではないか。

- たとえば、「ある個人が数学を学ぶこと」と、「数学そのものが正しいかどうか」とは別のこと。

論理は生まれつき

「幼児に $1+1=3$ だと教えることはできない」と言っていたが、幼児は生まれつき数学を知っているということか。

- 事実として、そうらしい(メレール&デュプー『赤ちゃんは知っている』藤原書店などを参照)。
- 論理的に言うと、「経験を可能にする前提」は経験によって学ぶことはできない。
 - 人間が(あるいは生物が)世界を「知覚」するためには、感覚データを秩序づけなければならない。
 - 「論理」はその「知覚における秩序」に(少なくとも一部は)対応している。

論理と実験

理科の実験では、経験(実験)から原理を見出すのではないか。

- 科学における実験は理論的に予測された仮説を検証するために行う。

論理と言語

英語のLifeは日本語では「生命・人生・生活」などの意味を含むから、Lifeについての考察と、「生命」についての考察は違ったものになるだろう。このように、言語によって概念の区分が異なるので、ある言語コミュニティの中でしか通用しない概念も出てくるだろう。

- 犬の中でも「うちのポチ」にしかあてはまらない事柄があるのと類比的。
- 文脈がなければLifeは多義的だが、英語で「生命」について検討しているときに「人生」という意味が紛れ込むことは通常はない。
- 気づかずに多義性に引っ張られることはあるが、指摘されれば気づく。
- 人間は他言語を学ぶこともできる。

哲学も人それぞれ

哲学は人それぞれではないと言っていたが、ロックとホッブズの自由に対する考えが違うように、やはり人それぞれではないか。

- 哲学は(あるいは学問一般は)普遍を求める。
 - 人間は間違えることもあるから、ある学者が普遍をうまく把握できたかどうかは別の問題。
- 学説同士の間には矛盾や齟齬があったときには、感情や暴力でなく、論理によって解決を図る。
 - その「論理」は共有されている(人間は、論理的に間違った推論をすることもありますが、指摘されれば気づく...はず)。

前回の小テスト

問1

- 倫理的原理は、どのようなものだと説明したか。

- ① 社会や歴史的状況によって決まる価値観。
- ② 人間にとって容易に実行可能な行動方針。
- ③ 悪に堕しやすい人間を導く遠くの光。
- ④ 神が与えた普遍的法則。

問2

- 科学についてどのように説明したか。
 - ① 不明確な直感を排除して哲学を乗り越えた。
 - ② 不可解な部分をあえて問うのをやめ、前提として受け入れた。
 - ③ 自分が当たり前と思っている価値観の根拠を問い直す。
 - ④ 世界が存在する理由についても科学的に明らかにできる。

問3

- 体験と論理の関係についてどのように説明したか。
 - ① 論理と体験が食い違った場合、体験の方が疑われる。
 - ② 論理的な正しさは体験によって与えられる。
 - ③ 子供が小さいときから教え込めば、論理的に間違っていることでも身につけてしまう。
 - ④ 体験は人それぞれだから、論理も人それぞれになる。

問4

- 物事を理解するとはどういうことだと説明したか。
 - ① 一般概念を把握すること。
 - ② 個別的な知識をたくさん集めること。
 - ③ 人それぞれの経験を一般化すること。
 - ④ 物事に、人間が作った概念を当てはめること。

問5

• 理性を英語で言うと、

- ① Intelligence
- ② Understanding
- ③ Reason
- ④ Intuition

問6

- パルメニデスはどうか考えたか。
 - ① 存在は一にして不変。
 - ② 生成変化は原子の組み合わせ。
 - ③ アキレスはカメに追いつけない。
 - ④ 生成変化は地水火風の組み合わせ。

問7

- プラトンはどのように考えたか。
 - ① 生成変化の背後に普遍のアイデアが存在する。
 - ② アイデアは人間が付けた名前に過ぎない。
 - ③ アイデアは人それぞれによって変わる。
 - ④ アイデアは人間にはまったく見えない。

では、前回の続きから。

プラトンのイデア論

- 生成変化の背後にある不変のイデアを想定
 - あるものが「何であるか」について、人間の側が勝手に決められない。
 - 猫を「犬だ！」と見間違えても、言い張っても、猫は犬にならない。
 - 正しいイデアをつかむことが、そのものを理解することだ。

われわれが個物や個々の行為を見る
とき、アイデアも見て取られる。

- たしかに事実として、われわれは個物を見たときに、個別性に注目するよりは、それが「なんであるか」(何のグループに属するか)の方を見て取ってしまう。
 - 理解するとは、一般概念を把握することだ。
- 初めて見たものであっても、類似性は見てわかる。

ここまでは本当っぽい。

- しかし、アイデアは、個物とは別に実在する。
- では、アイデアはどこに実在するのか？

アイデアの世界です

「想起説」(anamnesis)

- 我々は生まれる前は、純粹なアイデアの世界に住んでいるのだが、この世に生まれたときに忘れてしまう。
- でも、なんとなくアイデアを覚えているので、この仮の世の現象を見ても、なんとなくアイデアが思い出される。

(『パイドン』など)

さすがにそれはちょっと...

- それに、個々のハダカデバネズミと、ハダカデバネズミのアイデアが別物だとすると、**両者を同じものだとみなす根拠となるものは何か？**

ハダカデバネズミの
アイデア

ハダカデバネズミ

(「ハダカデバネズミ」
と「ハダカデバネズミ
のアイデア」)のアイデア

いわゆる「第三の人間」論

アリストテレスの「存在」理論

ここまでの哲学から受け継いだ「前提」とそこから帰結する「謎」:

- 論理的に考えると、生成変化はありえない。
 - われわれの日常的経験には生成変化が満ち溢れている。
- われわれは、生成変化するものから、不変の「イデア」を見て取る。
 - イデアはどこにあるのか？

「生成変化」の例

- ある人が音楽家になる。
 - 「ある人」→「音楽家」=矛盾？
 - 「ある人」→「ある人＋音楽」=「ある人」も「音楽」も変化しない。
- 青銅＋形相→彫像

⇒生成変化は、「無から有が生じる」のではなく、
「変化しないもの」の組み合わせ。

- 実体 (sub-stance: 下に-立つ) と形相 (form)

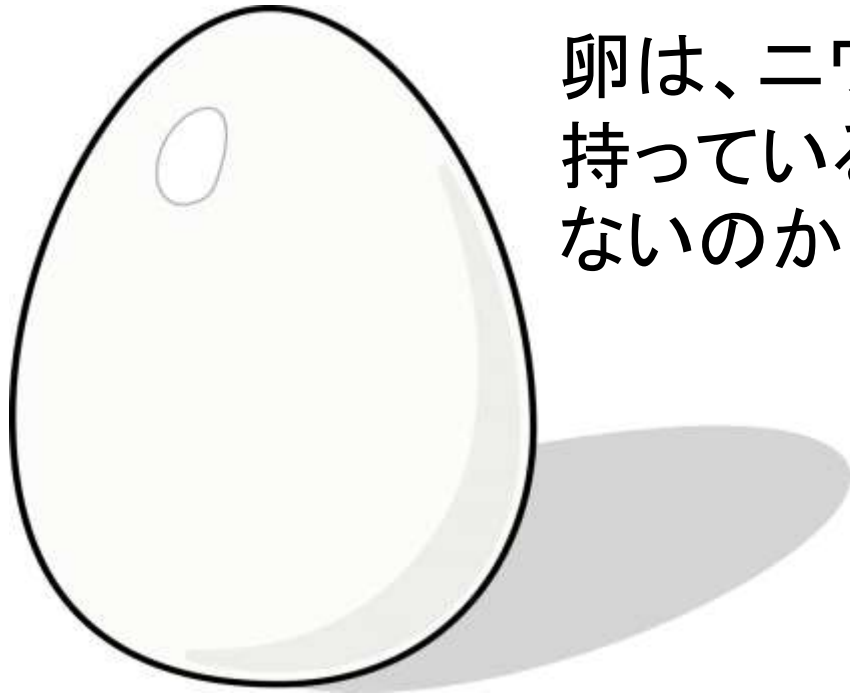
では、様々な物事の「本質」は何か？

- 本質 = ousia = be動詞の名詞形 (essenceも同様)。
- ものごとの「本質」への問い: What **is** X ?
 - 答え: X is ●●●.
- 「●●●」に入るのは？
 - 「**形相**」の方。
 - たとえば、「ハダカデバネズミ」がハダカデバネズミ**である**のは、血や肉や骨などの素材 (matter) ではなく、それらを「一つのもの」としてまとめている「形相」である。

アリストテレスの存在論

- 普遍の要素の組み合わせによって、「生成変化」を説明しようとする。
- 「生成変化」の典型的な例として、生物と工作物を念頭に置いている。
- そういう「生成変化するもの」についての理解は、単に「イデア」を把握するだけでいいのか？

たとえば、



卵は、ニワトリの形相を
持っているのか持ってい
ないのか？

「他の何にも似ていないもの」の名前を
知ったら、理解したことになるのか？